

医療機関BCP策定ガイド

Guidebook for formulating medical business continuity plan



政府発表の『南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン』には災害応急対策の基礎として水道や電気などの供給体制確保と並列して『病院や百貨店等については、原則として営業を継続する』との記述があります。

BCP(事業継続計画)は脅威にさらされても事業を継続するために計画されます。業種によっては一時的に操業停止ができる場合がありますが、医療の場合は途切れることなく続けることが期待されています。

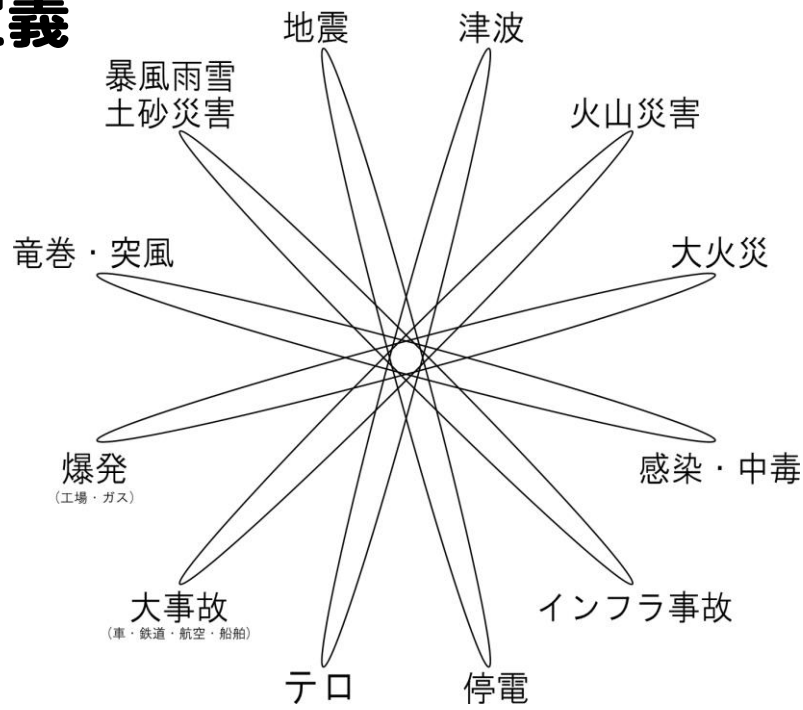
最初の作業は『脅威』の定義

医療機関BCP策定は脅威を定義する作業から始めます。

地震や火災は身近な災害として取扱われることが多いですが、近年は水害も多く発生しています。

東日本大震災では計画停電、北海道地震では全道停電(ブラックアウト)が発生し停電の脅威が再認識されました。

パンデミックや経済危機などは事前の準備や想定なしに対応することが難しく、BCPの有効性が実感されやすい脅威です。



基本方針が大事

BCPが活用されるのは何らかの脅威が近づいたときです。

非常事態が発生すると、現場は混乱します。

その混乱の中でどのような行動を取るべきか、スタッフが向くべき方向が明らかになっていると自律した行動が期待できます。

BCPは、基本方針に肉付けしていく形で策定を進めます。

方針決定は強い司令塔がイメージできるトップダウン的な方法、あるいはワーキンググループなどからの提言で決定する方法などがあります。

方針例 職員と患者の生命を最優先
地域社会の求めに応じる医療サービス提供者
災害拠点病院としての医療提供体制が継続できる強靱性確保



基本構想・基本設計



基本方針に基づいた基本構想を描きます。

どのようなBCPになるのかコンセプトやビジョンを練り上げていきます。後々に作業の手戻りが無いように、何度でも練り直します。

基本構想を参考に、全体の概要を決める重要工程である基本設計をデザインします。

BCPに盛り込まれる要素、骨子が基本設計に描かれていきます。

規模感や時間感覚も併せて検討していきます。食糧の調達方法や調理者などは未定であっても、何人分×何日分という程度のことは基本設計の段階で決めておくと作業工程が円滑化されます。

基本設計をデザインする際に、院内にある各種マニュアルについても確認しておきます。医療安全管理室や感染制御室の多忙な業務に負荷をかけないように、既存のマニュアル類は活用するようにします。避難マニュアルなど消防法に基づき策定されているドキュメント類にも目を通します。

医療機関BCP策定支援サービス

広告

医療は災害が発生すると需要が激増し、社会的使命として事業の継続が求められる独特な性質があります。何から手を付けて良いかわからない、何が足りないのかコメントが欲しい、個々の医療機関が持つ多様な依頼に応じる医療機関BCP策定支援サービスを、m-BCP策定実績のある臨床経験者が提供しています。

実施設計・行動計画

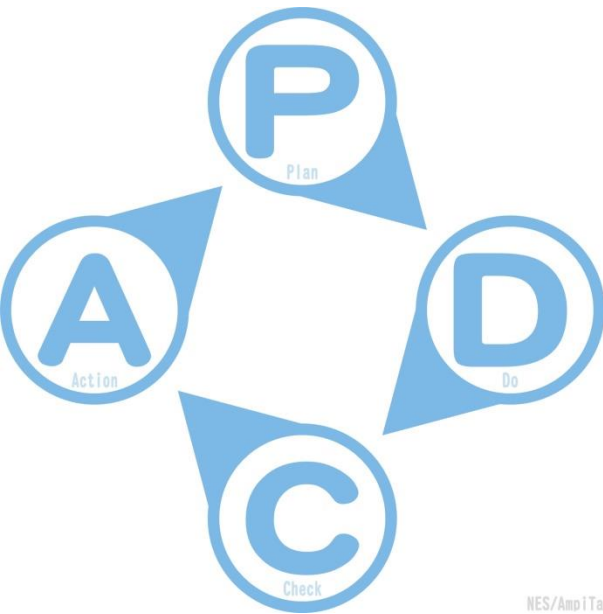
基本方針に則り、基本設計を実施可能な計画に書き直していきます。

BCPはマニュアルではないので細かな手順は不要ですが、混乱の最中であっても切り抜けられるために必要なディテールを示します。

例えば災害が起これば職員が参集するのは当たり前のようにも思えますが、どのような時が参集すべきときで、実際には何割程度の職員が参集できるのかなど、些細な事でも詳細な条件設定が必要となる要素があります。



シミュレーション・トレーニング



BCPは計画なので、実践するには訓練が必要になります。訓練を実施する前にはシミュレーションが必要であり、いくつかの場合分けをして想定外の事態を減らしていきます。

よくある避難訓練のように、決められた手順で迅速に避難できることも良いのですが、BCPではあらゆる状況を想定し、予定外のハプニングが伴う訓練も有効とされています。

机上訓練で『避難途中でもトイレに行く患者さんが居そうだよね』などと何気なく出る看護師の言葉なども聞き漏らさず、そうした状況にも対応できるBCP策定に努めます。

BCPは脅威から生命や財産などを守ることが重要になります。現場の判断力や自律性を磨くためにも訓練が重要になります。

シミュレーションやトレーニングを重ね、PDCAサイクルを回していくことでBCPにも磨きがかかります。

ブラックアウトBCP策定サービス

広告

停電は社会的影響が大きな事件ですが、自然災害ではないため行政の介入が少ないのが特徴です。医療の電力依存性は誰もが知るところですが、臨床の立場から電力をマネジメントする人材は少ないです。臨床工学技士と電気工事士の両実務経験がある稀少人材が、貴院のブラックアウト対策をサポートします。

医療機関BCP策定ガイド

Business Continuity Plan

BCP策定フロー

脅威定義

基本方針

基本構想
基本設計

実施設計
行動計画

模擬実験
訓練修練

誰のためのBCP？

BCPは自院のために策定します。災害時にどのような医療を提供するのか、停電時にどのような体制で患者を守るのか、各院が独自の思考で計画を立てることができます。

医療の受け手となる患者は、BCPによって医療提供体制が継続されていることで診療を受ける事ができます。BCPの直接的な目的は自院のため、間接的に患者や関係者に波及します。

主体は自院であり、事業を継続することがBCP策定の目的になります。

ワーキンググループ

BCPの小委員会、WGが形成され策定が進められる事が多くあります。

病院全体を知る看護師、物流や財務に強い事務系職員、前線で診療に当たる医師がWGメンバーに居ると比較的作業が進めやすくなります。

日常業務の片手間に未経験者がゼロからBCPを策定することは容易でなくWGもいずれ疲弊してしまいます。

助っ人として外部人材の招聘や、たたき台となるBCPの調達などがWGをサポートしてくれます。

院内イベント

BCP関連の院内イベントは防災訓練や医療安全研修などに相乗りする事で年数回の開催機会があります。

言語化が難しい災害対応では実体験が対応力向上に直結しやすく、院内でも体験型イベントが推奨されます。

1時間の用手換気、2トン分のバケツリレー、3食連続カップ麺、イベントで実体験すれば課題も見つかります。

BCM

Business Continuity Management

BCPは計画ですが、それを実践していくためにはマネジメントが必要になります。

BCPをブラッシュアップするためのPDCAは重要なマネジメントです。

実践性向上のためにはBCPを関係者に浸透させ、非常事態に直面しても自律的に行動できるようなマネジメントが必要になります。

発行者

NES株式会社 (エヌイーエス)

登録電気工事業者 兵庫県 第300333号

所在地 兵庫県伊丹市野間5-10-13

URL <http://www.24med365.net>

メール info@24med365.net

